



寄居ロータリークラブ

YORII ROTARY CLUB

会報



IMAGINE
ROTARY

R.I.会長
ジェニファーE:ジョーンズ
第2570地区ガバナー
村田 貴紀
第4グループガバナー補佐
金井 福則



令和4年11月16日(水)

会場 ホテルシティプラザ寄居

第2678回例会

司会 橋本 則彦 (SAA)

点鐘 津久井 大雄会長 (12:30)

ソング 奉仕の理想

お客様 寄居町商工会事務局長 杉山 明功さん

1. 会長の時間

津久井 大雄さん

皆さん、こんばんは。約1ヵ月ぶりの夜間例会ということで、やはり夜間だと仕事が丸一日集中できて、いいなと思います。皆さんはいかがでしょう



か。
今日は、先ほどお話ししたとおり寄居町商工会の杉山事務局長の卓話がございます。杉山さん、後ほどよろしくお願いたします。

私から大事なお話しが二点ほどございますので、よろしくお願いたします。まず一つ目に、今年度は社会奉仕事業の一環といたしまして、地区補助金を使って交通安全・危険箇所 看板設置プロジェクトを寄居町PTAとコラボすることが決まっております。そのことで、先週、寄居町連合PTA会長の白川真君(商工会職員)と確認を取りました。ちょうど目の前に山口さんがいらっしゃいますが、10年前と同じ文言でいいということになりましたので、それで行きたいと思います。

それと、先週、現理事と10年間のパスト会長で2024年のガバナー補佐選出についての会議を行ないました。16名の参加で行なわれました。今、寄居ロータリークラブの会員が32名なので、ちょうど半分です。その中で、2024年度のガバナー補佐の件について話し合いを行ないました。ガバナー補佐選出については、第4グループで輪番となっております。再来年に補佐が回ってまいります。今年度は本庄RCの金井さん、来年度は秩父RCの原島さんになる予定です。寄居では、これまで藤崎さん、藤野さん、槇島さん、柴崎さん、柏原さん、荻野さん、そして2016年に佐橋さんがガバナー補佐を歴任しております。それで、会議を行なった結果ですが、柴崎猛さんが補佐の大役を受けてくれることになりましたので、ご報告いたします。本

当に大変な役になると思います。寄居ロータリークラブが一丸となり、柴崎さんを盛り上げていければいいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いたします。

先日のふるさと祭典市では、皆様方のおかげでサンマが無事に焼けて本当に良かったと思います。いろいろなことがありましたが、終わってみれば楽しかった、いい思い出になりました。ありがとうございます。

では、会長の時間は以上となります。

2. 幹事報告

松本 則之さん

皆さん、こんばんは。杉山さん、今日は寄居ロータリークラブにおいていただきありがとうございます。この時間でお酒を用意できておりませんが、何卒ご容赦いただければと思います。



地区事務所から、2022年「手続要覧」印刷冊子、分譲のご案内が届いております。本文を一部読み上げさせていただきます。

2022年の規定審議会を受けて「2022年手続要覧(日本語版)」が発行されます。ただし、本年度からは「印刷冊子」の提供は廃止されMy Rotaryからのダウンロードのみとなります。当地区では活用の利便性を考え、地区内クラブ用として一定数を印刷物として用意したい(有償)と考えております。という内容になっております。理事会で、当クラブでは5冊ほど購入すること決定いたしましたので、ご了承ください。

村田ガバナー、米山記念奨学統轄委員長 渡邊藤男様より、2023~2024年度 米山記念奨学生受け入れのお願が届いております。これについては、12月の理事会で決議を取りますが、何かご意見があるかたは会長、幹事、また理事のかたにお伝えいただければと思います。

次週の例会は、2週飛んで12月7日にホテルシティプラザにて12時半点鐘で行なわれます。またご参加のほどよろしくお願いたします。

以上で幹事報告は終わります。

3. 委員会報告

(1) 出席推進委員会 小宮 俊光さん
杉山さん、ようこそ寄居ロータリークラブへ。卓話よろしくお願ひいたします。

為替レートがだいぶ落ち着いてきました。ようやく適正に近づいてきていると思います。

例会日	総員	欠席	出席	MU	出席率
11月16日	32	6	26	0	81.25%
11月9日の修正出席率					93.75%

(2) 職業奉仕委員会 山口 正彦さん
皆さん、こんばんは。商工会の杉山局長、本日はありがとうございます。お待ちしておりました。今まで来たお客様の中で、名前が一番大きく書いてあるのではないかとということで、皆様の歓迎の意が表れているのだと思います。本日はよろしくお願ひいたします。

来年の1月25日に行います優良従業員表彰の件です。今のところ、シバサキ製作所さんから10名のご推薦をいただいております。本日、寄居精工さんから1名のご推薦をいただけるということで、ご予約をさせていただきました。今のところ11名の予定です。まだもう少し時間がありますので、皆さんの会社、また地域のかたで推薦したいという人がいましたら、ぜひお願ひいたします。社員だけではないです。ロータリーの場合は、地域でこんな素晴らしいことをしているかたがいますので、その功績を表彰したいということがあれば、表彰の対象になりますので、もしそういうかたがいらっしゃいましたら、ご推薦をいただければありがたいです。推薦書は12月21日までということになっておりますが、できれば12月の第一例会で最終と考えていただければと思います。毎年、賞品の手配を清水さんにお願ひしております。賞品の手配などがありますので、ぜひご協力いただければと思います。よろしくお願ひいたします。

(3) ニコニコボックス委員会 松本 幸男さん
皆さん、こんばんは。日曜日のふるさと祭典市のサンマ焼きに大勢のご参加をいただき、ありがとうございます。焼くことが精一杯で食べられなかったかたがいたと思います。また、来年も行なう予定でございます。今年は早く終わってしまったので、来年はサンマの数が多くなるかもしれませんが、そのときはどうぞよろしくお願ひいたします。

津久井大雄さん 杉山様、本日の卓話よろしくお願ひいたします。アルコールを出せないのですいません。

松本則之さん 先日はサンマ焼きに参加いただきありがとうございます。完売で自分の分が買えなかったのが残念ですが、楽しいひと

ときを過ごすことができました。

松本則之さん 杉山さん、ようこそ寄居ロータリークラブへ。卓話楽しみです。会場を爆笑の渦にしてください。

赤坂匠康さん 杉山局長、ようこそ寄居ロータリーにお越しくださいました。寄居町に対する熱い想いを今夜は洗いざらい話していただけると楽しみにしていました!! よろしくお願ひします。P.S 耳のそうじして来ました~!

少し多めにいただきました

佐橋正行さん 杉山様、寄居ロータリークラブへようこそ。卓話よろしくお願ひします。

吉野泰久さん 今夜、卓話においていただく話を聞いてから楽しみでワクワクで! 寝不足が続きましたよ。

浅見克一さん 杉山局長、寄居ロータリークラブへようこそ。卓話楽しみにしております。

浅見克一さん 小宮さん、大臣表彰おめでとございます。

山口正彦さん 商工会杉山局長、ようこそRCへ。毎週来てください。

鈴木光則さん 杉山さん、ようこそ寄居ロータリーへ。卓話楽しみです。前回ニコニコ普通に入れましたので、今回も普通に入らせていただきます。

柴崎 猛さん 杉山局長、寄居ロータリーへようこそ。卓話楽しみにしています。

柴崎 猛さん 寄居町合同表彰式にて、産業功労として表彰を受けました。皆様のおかげです。

柴崎 正さん 杉山局長さま、いつも大変お世話になっております。本日は卓話よろしくお願ひいたします。

清水浩一さん 杉山局長、寄居RCへようこそ。寄居の未来のお話し楽しみです。

大久保知明さん 杉山さん、ようこそ寄居RCへ。今夜は卓話よろしくお願ひします。

安齋治一郎さん 杉山局長、ようこそ寄居RCへ。本日はよろしくお願ひします。

小宮俊光さん 杉山局長、ようこそ寄居RCへ。卓話楽しみにしていました。よろしくお願ひします。

荻野真仁さん ふるさとの祭典市、大変ありがとうございます。本日は所用で先に失礼させていただきます。杉山さん、ゆっくり楽しんでいってください。

橋本則彦さん シティープラザでの夜間例会は久しぶりです。今夜はよろしくお願ひします。

下条 誠さん 杉山様、ようこそ寄居ロータリークラブへ。本日もよろしくお願ひします。

吉田昌弘さん 杉山局長、本日はよろしくお願ひいたします。

小鮎哲夫さん 杉山局長様、ようこそ寄居RCへ。本日はよろしくお願ひします。

豊田康業さん 杉山局長、今日のお話しを楽しみにしております。よろしくお願ひします。

野村文昭さん 日曜日はサンマを食べられるかな？と思っておりましたが、すでに焼き終わっていました。残念!!

松本幸男さん 杉山局長、ようこそ寄居ロータリークラブへ。お兄さんと呼ばせていただき20年、ありがとうございます。本日は卓話楽しみです。またふるさと祭典市はお世話になりました。

津久井大雄会長

ニコニコボックスにたくさん入っていますが、これが杉山さんの姿なのではないかと思ひます。

本日は卓話で、ロータリー移転の件、また中心市街地活性化の件をお話ししてくださると伺っております。最初に杉山さんの簡単な紹介をさせていただきます。杉山さんは、我々青年部にとって兄貴的な存在で、先ほど松本さんから話がありましたように、後輩からも、親しみがあつて、とても頼りにされている先輩であります。自分にとっては同世代なので、杉山さんが青年部の担当のときは、よくどんちゃん騒ぎをしてお酒を飲んだなと思ひ出されます。今、寄居ロータリークラブ会員のうち25社が寄居町商工会の会員です。来年、商工会(旧武蔵野銀行)への移転が決まりました。移転に伴い、今後、商工会とのコミュニティがより一層必要であろうと思ひます。プライベートでも非常にお酒がお好き、またゴルフも大好きということで、今度ぜひ夫婦対決ということでよろしくお願ひいたします。

杉山さん、本日の卓話楽しみにしておりました。時間はたくさんとおりますので、よろしくお願ひいたします。

「卓話」寄居町商工会 事務局長 杉山 明功さん

ご紹介いただきました寄居町商工会事務局長の杉山でございます。本日はよろしくお願ひいたします。皆さん



から過分なるお言葉をいただきまして、先ほど会場に入ったとき以上に緊張してボルテージが上がっておりますが、温かい目で見いただければ幸いです。先ほどお話しがりましたが、まず初めに「ふるさと祭典

市」のサンマ焼きをサポートしていただきまして、心から感謝を申し上げます。おかげさまで、祭典市も賑やかに、そして無事に行なうことができました。本当にありがとうございました。

それでは、お話しを始めさせていただきます。ご案内のとおり、今、寄居町商工会は旧武蔵野銀行さんに移転計画を進めているところでございます。元々寄居ロータリークラブさんがご加入されておまして、商工会より先輩でいらっしゃいますが、今後もこちらにご加入していただくということで、寄居町の移転プロジェクトについてご説明させていただきます。商工会の移転に伴いまして、いかに寄居町の経済を活性化させていくか、経済界の先輩の皆様の前で大変僣越でございますが、お話しをさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

現在、旧武蔵野銀行寄居支店周辺は大変工事が進んでおまして、来年に完成予定でございます。中心市街地活性化基本計画について、商工会の移転におきましても大きな影響がございますので、本題に入る前に少し中活計画について触れておきたいと思ひます。



中心市街地活性化基本計画は、国の認定を取りまして、補助や支援を活用して進めていく計画で、平成30年4月から令和5年3月までの5年計画で、今年度が最終年度となっております。内容としては、ざっくり道路や駅前拠点、雀宮公園整備等のハード事業、それから柴崎猛さんが社長を務める株式会社まちづくり寄居の運営、そして商工会がもっともかかわっている、連携しているソフト事業になります。今日は、その内のソフト事業につきましてお話しをさせていただきます。正直言いますと、なかなか思うようにいかなかったというのが私の感想で、もちろんまだ道半ばではございますが、私の失敗の話も含めましてご説明させていただきます。

大きな変化があつたのは平成28年4月、寄居町が中心市街地活性化基本計画の認定を受けようと、株式会社まちづくり寄居を立ち上げたところから始まります。ちょうどそのころ、私は埼玉県商工会連合会に出向しておりました。出向から戻つたのがその年の7月で、正直私は中心市街地活性化事業については全くのド素人で、本当に戸惑っていました。ちょうどそのときは50歳になったところで、50歳からの挑戦が始まりました。一年

生のつもりで真摯に挑み、一年生のつもりで新たなネットワークを広げ、興味のある街や会ってみたい人のところに、積極的にプライベートの時間を使いまして、赴いて勉強させていただきました。伺ったのは、青梅、沼垂、飛騨古川、山形です。

※ 杉山さんが大変影響を受けた方々をご紹介します。個人情報のため割愛させていただきます。

私の目標

これは、あくまでも私の個人的な目標で、中活計画全体の目標というよりは、私はこういう思いで、こういう目標でまちづくりに取り組もうといったものになります。ご紹介させていただきます。まず、「だれもが自主的に、そして楽しいまちづくりに参加できる街」「だれもが様々なチャレンジができる街」ということで、町民の皆様がこんな思いで楽しくまちづくりに参加できるようになっていただければと思っておりました。ただ、これは私がいくら言葉で話しても、文字を出しても、なかなか人の気持ちは変えられるものではございません。それこそ百聞は一見にしかず、さまざまな事業を展開していき、町の皆様の気持ちを変えていければと、たくさんの挑戦を行なっていました。もちろん、町民の皆さん全員の気持ちを同じ方向に変えるなどという大それたことは思っていませんでした。それぞれの中心市街地活性化の課題はイコールではありません。持ち場持ち場によって課題はぜんぜん違います。例えば行政の課題、商工会の課題、商店街の課題、まちづくり会社の課題、店主の課題、それこそ住民の皆様の課題は全部イコールではないということです。「自分の立場から見える街の課題設定を正しく捉え直し、各々の状況で行動を正しい方向に変え、自分がその原動力の一部になる」というところを感じていただければという思いで、まちづくりのいろいろなチャレンジをやってまいりました。

私たちの挑戦をいくつか紹介させていただきます。まずは、シンプルではありますが、空き店舗事業です。寄居町には数多くの空き店舗があります。その空き店舗に新しいお店をたくさんオープンさせることで街の空気感を変え、街の皆さんに街に興味を示してもらい、少しでも街が動き出すことを挑戦していきたくと思いました。新たなお店をオープンさせるために、商工会が中心となり町や県を巻き込み、そのほか不動産業者さん、建築士さん、中小企業診断士さん等々のメンバーでプロジェクトチームを作り、まずは空き店舗の調査、空き店舗の貸店舗化、空き店舗ツアー、創業塾等々を実施いたしました。一店舗ずつ空き店舗に新しいお店をオープンさせていきました。

これは、正喜バルさんです。正喜バルさんは、このプロジェクトが始まる直前くらいにオープンしたお店ですが、やはり正喜バルさんがオープンしたというのは我々

にとってとても大きなインパクトがあり、こういうお店を一軒でも多く増やしたいという思いから、空き店舗ゼロプロジェクトをスタートしたといっても過言ではないと思います。



これは、アトリエリカさんです。アトリエリカさんも直前にオープンしたのですが、このお店ができたのは本当に衝撃的でした。新しいニーズを持ったお客様が寄居の商店街を訪れることのきっかけを作ったお店だと思っています。



続いて、CHILLさんです。チルさんは、本当に出来上がるのだろうかと思うような建物でしたが、こんなきれいなお店になりました。チルさんは、店主がお客様にお腹がいっぱいになってもらいたいという思いがひしひ



しと伝わってくるお店で、今では大変人気のお店になっています。

最後に、桜沢小学校の前にできましたUn Sourire（アン スリール）さんというケーキ屋さんです。実は、私は甘いものが大好きで、21年前に商工会に入ったときから寄居町にケーキ屋さんを作りたいというのが最大の目標でした。こちらも、商工会でご支援させていただいて、空き店舗を埋めることができました。



結果的には7年間くらいで寄居町内に35店舗ほどのお店のオープンのお手伝いすることができました。既に10店舗くらいは閉まっておりますが、これで街の空気感が変えられたかな…というところが、実を言いますとなかなか変えることができなかつたかなと。素敵なお店をオープンさせることができたのですが、まだまだ町の皆さんが「寄居町変わったな」と実感するところまでは至らなかつたかなというのが、私の反省するところです。

続いて次の事業になります。5年くらい前に寄居若者会議というのを立ち上げました。これは、寄居町内外の若者に集まってもらい、様々なトライをしてもらい、町を好きになってもらい、町を楽しんでもらい、次世代のプレーヤーになってもらいたいという思いから行なった事業です。立ち上げ当初は30名ほどの参加者がおりまして、内訳は地元10名、町外10名、学生10名、それぞれの想いから、様々なプロジェクトを立ち上げていきました。例えば、まちづくりマップを作ったり、空き店舗の掃除をしたり、100人会議を開催したり、マルシェを開催したり、いろいろなチャレンジを繰り返し2年ほどは大変盛り上がりました。次世代のプレーヤーが育ってくればとの思いで実施しておりましたが、コロナの影響もあり、町や商工会の手が離れ、自主的に運営していくことに限界があったかと思いますが、徐々に縮小していきました。まだまだこのプレーヤー作りということも反省するところがあったというのが私の思いです。

続いて、レイヤーズフープヨリイという事業の説明をしたいと思います。レイヤーズフープヨリイは寄居町商工会主催で開催させていただきました。ちょうどコロナが始まる直前の事業です。町の課題、町の事業者さんの課題を町外の若者たち、あるいはプロフェッショナルなサポート陣とともに、概ね半年間かけて検討し、解決していくというプログラムです。東京で新しいビジネスを展開している人たちと埼玉県内でいろいろなチャレンジをしている人たちにサポートさせていただきました。半年ではありましたが、3つの課題に対して、それぞれの皆さんが意見をぶつけ合って、新しいプロジェクトを作っていくという事業です。裏ミッションとしましては、メンター陣を含め、参加メンバーに寄居町にかかわってもらいたいという思いがあり、いわゆる関係人口の創出を目指しておりました。関係人口が若干増えたところもあるという結果が出ました。ここにいらっしゃる吉田さんのところも、この課題解決に参加させていただきました。吉田さんのところで、新しいコンテンツ事業を作ることができまして、こちらは小規模企業白書にも載るような内容で、一つのビジネスが出来上がったのかなと思っております。一定の効果は出たのですが、やはりコロナの影響が強くて新しい風を町に受け入れることができなかつたかなというところが、私の反省と失敗です。

説明した内容は、我々が進めてきたソフト事業の一部ではありますが、個人的には、思うように進まなかつたことも多くて、たしかにコロナの影響は大きかつたと思いますが、なかなか難しかつた部分があつたのと、私の失敗、私の勘違いの部分があつたと非常に反省して、今後も検証していかなければいけないと思っております。街の空気感は変わらなかつたかな？新しい風を受け入れられなかつたかな？思い齒車が回り始めれば、回転は加速するのかな？と思っておりましたが、なかなか加速しなかつたことが反省点でございます。この事業を6年間頑張ってきて、なかなか思うように進まなかつたことは正直かなりショックで厳しい心の思いがありますが、回転を止めるわけにはいきませんので、新たな挑戦も進めていかなくてはと思っております。

そこで、やっと本題に入ります。寄居町商工会館の移転プロジェクトを説明させていただきます。まずはここに至るまでの経緯をお話しさせていただきます。現在の商工会館は昭和40年に建築、築57年です。私と同じ歳です。かなり老朽化が激しく、耐震が不適合のため修繕も行っておりませんので、雨漏りもしますし、非常に痛みが激しい状況です。柴崎猛さんが商工会長、私が事務局局長になったのがちょうど14年前ですが、そのときから最大の懸案でありました。少し愚痴になりますが、14年前に既に雨漏りがしている状況でしたが、商工会の貯金はゼロでした。会館引当金がゼロということではな

くて、商工会決算上で貯金ゼロ、商工会財務状況も赤字の状況からのスタートでした。埼玉県監査において、商工会館の減価償却期間が切れる50年を目前に、県から「今後、商工会館をどのように考えているのか報告せよ」と指摘を受けました。

そこで、まずは商工会の財務改善と徹底的に経費削減をしまして、毎年少しずつ貯金を始めました。並行して、商工会館の移転先、あるいは補助金などを探り始めました。ご存じのかたもいらっしゃるかもしれませんが、町中にある旧保健所への移転を検討しましたが、残念ながらこれもとん挫してしまいました。国や県の補助金も皆無、町に町有地等への移転を含めて助けを求めましたが、なかなか相手にしてもらえず、ただただ地道に14年間自己資金を貯めていきました。引当金3000万円が見えてきたところで、中心市街地活性化事業で何度か視察しております旧武蔵野銀行寄居支店さんへの移転を検討し始めました。武蔵野銀行さんに交渉を始めたのは2021年1月です。交渉は思うように進まず、計画書を何度か提出したり、役員さんとも交渉して、最終的には「オープンイノベーション拠点」として、コワーキングスペースやシェアオフィス併設する施設とした計画を2022年6月に承諾してもらいまして、すぐに計画をスタートさせました。

地域経済の課題

商工会館を寄居町の経済の活性化に対して、いかに活用していくかについて説明します。最近は経済も複雑化しておりまして、いろいろな課題があると思います。それこそ経済の先輩方のお話するのは大変恐縮なのですが、やはり商工会としましては、町内の事業者数の減少が非常に加速していることは大変な課題だと思います。今後、商店街の状況等も含めまして事業者数の減少が加速であろうと。それから、地域経済が低下していくことにより、地域がどんどん疲弊していくことを避けることはできないと考えます。商工会としましては、地域の疲弊は人口減少以上に、中小・小規模企業の減少のほうが大きな影響があると思っています。それは地域のコミュニティを担ってきたのが、まさに中止・小規模企業の皆様であるからだと考えています。「地域の活性化は地域経済の活性化から」で、いかに元気な中小・小規模企業を増やしていくかということが課題になっていくと考えています。

商工会のミッション

元気な中小・小規模企業を増やしていくための商工会のミッションです。一つ目が、既存企業のイノベーション、経営革新、地元の既存の企業の皆様には経営革新を進めていただき、元気な企業にはさらに元気に、あと後継者の問題等で廃業が見込まれる企業には、事業継承支援等で事業継続ができるよう勧めていきます。二つ目

が、企業誘致。企業誘致といいましても、大型の企業誘致ではなくて、中小・小規模企業の皆様の誘致が必要だと思っています。最近は働きかたが多様化しており、東京にいなくてもグローバルな仕事ができますので、都心に近い寄居町の地の利を活かして、都市部から中小・小規模企業の皆様をどんどん誘致していきたいと思っています。そして、最後にこれは鉄板でございますが、新たな企業の創出、創業支援を行なっていきまして、商工会を中心に徹底した伴奏型支援により、創業するなら寄居町！と思われる町にしていきたいと考えています。

その前準備として、昨年度、商工会では中小・小規模企業振興条例を策定しました。現在、町に精査していただいております。議会にかけて、来年4月からの施工を目標としております。その一文を紹介しますが、これは商工会幹部の皆さん、特に当時商工会副会長であった現峯岸町長の想いが詰まった一文になっておりますので、ご紹介させていただきます。「寄居町の豊かな自然や風土と並んで、町内において生産・製造、または加工される産品及び商品、サービスは一つ一つが同町を特色づけることから、その担い手である中小・小規模企業はまさに寄居町そのものといえる」という文章を盛り込みました。峯岸町長も経済の活性化を第一に考えており、我々としても町と連携を強化して、経済の活性化に取り組んでいきたいと考えております。

オープンイノベーション拠点計画

続いて、武蔵野銀行さんに提出した「オープンイノベーション拠点計画」について少し説明します。オープンイノベーション拠点とは、従来の企業の壁や組織の壁、個人の壁、スキルの壁などで出会わなかった人々や技術、アイデアが出会う場です。そういった意味で、コンセプトは「すべての事業者が無数につながり、新たな価値を創出し、事業を加速させていくコミュニティの場とする」としました。機能としましては、まだまだ議論が必要ですが、コワーキングスペース、シェアオフィス、創業支援施設、企業のイノベーション施設、関係支援機関との連携施設等となります。

- ・地域内企業にとって事業革新がはかれる空間づくり
 - ・地域内企業にとって新たな発想が創出される空間づくり
 - ・創業希望者にとって新たな発想が創出される空間づくり
 - ・企業支援の連携体が強化される空間づくり
 - ・駅前エリアにおいて新たな人流が創出される空間づくり
- このような空間づくりをして、それを町全体に波及させていきたいと考えています。

ロータリークラブ様と商工会館機能の融合

前述の地域経済の活性化、さらにはその拠点となる商工会館の機能を最大限に活かしていくために、ロータリークラブ様と商工会館の機能の融合が重要であると考えました。キーワードは「斜め軸」。縦軸・横軸から進

み、斜め軸を通していきたいと考えました。寄居町において、持続的なビジネスを確立していくために、すべての事業者がメンター（相談者、助言者）となり、事業者間の有機的なつながりを活かして、共創していく場とする。有機的なつながりとは、異なる役割を持ったいろいろな部門あるいは人たちが、組織全体として1つの目標を達成するために、お互いに不可欠な相互作用をする補完関係を指します。世代間での斜め軸、異業種との斜め軸、よそ者・身内との斜め軸、性別・ジェンダーでの斜め軸を差し込むことが重要であると考えます。経済の先輩方であるロータリークラブの皆様、新しく事業を興した若者たちや外から来た事業者の皆様と斜め軸を差し、寄居町の経済の活性化を進めていただければと考えております。商工会館に寄居ロータリークラブ様に入っただけということ、より活性化していければと考えております。

ロータリークラブ様と商工会館機能の融合 横軸、縦軸から斜め軸へ



寄居町において、持続的なビジネスモデルを確立していくために、すべての事業者がメンターとなり、事業者間の有機的な繋がりをいかして、共創していく場とする。

簡単なスケジュールですが、今、設計しているところです。1月、2月は施工業者の選定、3月から6月は施工・整備工事。ここは施工業者さん次第でもありますが、一応予定です。そして、7月には引っ越しできればということを進めています。

二階ですが、もともとロータリークラブさんが入っていたところに入居していただきます。そのほか、シェアオフィスを作りたいと考えています。新しくチャレンジしたいと思っている企業さんたちがどんどん入ってくるような場所にしたいと思っていますので、そういう企業さんと経営の先輩の皆様がうまいこと融合できるような場所にしていければと考えています。



こういうオープンな場所にしていければと考えています。

地域経済の活性化は経済の活性化から

最後に、この事業は我々としては「ホップ・ステップ・ジャンプ」と考えています。商工会館の機能は、地域経済の活性化の第一歩のホップであり、ステップは町全体に波及していきたいと考えておまして、創業・企業誘致により事業者をどんどん増やしていく。そうすると店舗・オフィスが必要になりますから、店舗・オフィスをどんどん増加させていく。そのためには、空き店舗や空き家を活用していく。町の遊休施設も活用していければと考えております。これから町の遊休施設がたくさん出てくると思いますが、そこをもっともっと活用して、東京からカッコいい企業をどんどん入れていきたいと思っています。そんなところから、商工会館もカッコいい施設にできればと思っています。「事業を始めるなら寄居町、会社を興すなら寄居町」というイメージをどんどん発信していきたいと思っています。

産官学連携によるまちづくり

そして最終章のジャンプでは、産官学連携によるまちづくりを進めていきたいと思っています。これは、まだ商工会の中でも合意形成は図れていませんが、幹部の皆さん、特に荻野さんは別角度からも産官学を考えていて、よく議論しており、私の考えも荻野さんの受け売りのなところもあります。中小企業の皆様×寄居町×大学×ホンダと連携してスマートなまちづくりを推進していきたいというのが最終目標になります。広い道路を無人の車が走ったらカッコいいな。そんなところに、東京からベンチャー企業などがどんどん入ってもらえるようなまちづくりをしたいと思っていますし、それこそ

「様々な異なる役割を持ったいろいろな部門、あるいは人たちが組織全体として1つの目標を達成するために、お互いに不可欠な相互作用をする補完関係、有機的なつながりにより、寄居町の経済の活性化に活かしていきたい。経済の活性化は地域の活性化に必ずつながると思っていますので、それを進めていきたいと思っています。商工会移転プロジェクトは、その第一歩であり、カ

ツコいい施設を作り、様々なメンバーによる支援プラットフォームを作り、多くの魅力的なソフト事業を実施していきたいと考えています。

寄居会館でセミナーが行なわれました。ざっと130人くらい集まりました。先ほど、まちづくりが思うように進まなかった、町の人たちの気持ちがなかなか変えられなかったというお話をしましたが、この写真を見たときに、町の皆さんはやはり町が大好きで、町を変えたいのだという思いがとても強いのだと実感しました。私もへこんでいる場合じゃない。私の故郷の寄居町がもっともっと賑わい、活性化するためには、経済の活性化は不可欠で、経済の活性化をするためには商工会館の移転が非常に重要です。そこでロータリークラブの皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。

津久井会長より

杉山局長、本当にためになるお話をありがとうございました。ロータリーの目的でも、第1に知り合いを広めることによって奉仕の機会とすることという言葉があります。杉山局長のお話しの中にありましたように、地域の活性化のために商工会と手を取り合いながら、今後ロータリーを進めていきたいと思えます。よろしく願いいたします。

点鐘 会長 津久井 大雄さん

国際RC第2570地区第4グループ 寄居ロータリークラブ
E-mail yorii-rc@carrot.ocn.ne.jp

2022.11.16 会長 津久井大雄 会報・雑誌委員長 加藤 祐司
No. 12 幹事 松本 則之 副委員長 吉田 昌弘

・例会日時 毎週（水）12:30～13:30
・例会場 ホテルシティプラザ寄居
・住所 寄居町大字桜沢888-1
・TEL 048（581）2468
・FAX 048（581）3530